

道総研 丹保理事長が来町 町有施設を視察訪問

秋晴れのすがすがしい一日となつた10月7日、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構の丹保憲仁理事長が町有施設視察のため来町しました。

丹保理事長はものづくり体験館で町の概要について聴取された後、サクラマスセンター、チュウアリセンターを訪れ、展示物や、隣接するげんきの森を視察し、松井町長や河村環境生態系保全技術指導員の説明を受けました。

サンクチュアリセンターでは、余別川のジオラマやサクラマスの漁具を写真に収めるなど、展示物に高い関心を寄せていたようで、積丹町の印象を「積丹は魅力のある土地。札幌市からも近く、環境も優れており、可能性があるところ。」と語っていただきました。

丹保理事長は北海道大学総長や放送大学学長、国際水教会日本国内委員会委員長等々歴任され、特に水質の改善や比較など水処理の技術を大きく向上させ、水の研究で先駆的研究者として世界中に認められている方であり、このような方に視察に訪れていただきけるといふことは町にとって大変栄誉なことです。

このたびの来町に心より感謝を申し上げます。



姉妹都市交流

第32回刃物まつりへ参加

積丹町地域間交流推進協議会（会長：佐藤勝次積丹観光協会会長）などの訪問団8名が、10月19日・20日に姉妹都市である高知県香美市で開催された第32回刃物祭に参加し、積丹町産農作物等の販売や町のPR活動を行いました。

刃物祭りへの参加は今回で16回目となり、今回も「積丹町北海道産物市場」は土佐山田婦人会の皆さんなどの協力をいただき、大盛況でした。

両市町の交流は恒例となっているYOSAKOIソーランの他にも、6月に行われた味覚祭りには香美市より11名が来町、また8月に行われた土佐山田祭りにも町から2名が香美市を訪問するなど、北と南の深い絆が続いています。



平成25年度盲ろう者通訳・介助員養成講座

現在、一般社団法人北海道身体障害者福祉協会では「盲ろう者通訳・介助養成講座」の受講者を募集しています。詳しくは主催者に直接お尋ね下さい。

- (1) 募集定員 30名程度
- (2) 開催日時 平成25年12月13日(金)～15日(日)の3日間
- (3) 開催場所 道民活動センタービル10階1060研修室(札幌市中央区北2西7)
- (4) 受講料 無料。ただしテキスト代等の自己負担があります。
- (5) 申込期間 平成25年11月25日(月)までに所定の申込書で申し込むこと。

【お問い合わせ先】 一般社団法人北海道身体障害者福祉協会 TEL 011-251-1551

積丹ぐるぐる

積丹の

山・川・海でつながるいのちの輪（その6）

十七年ぶりの回帰

今回は余別川のそばに建てられたサクラマスサンクチュアリセンターの話です。同センターの完成は平成6年なので、今年で19年目になります。館内は太い木の柱を基調にした木造建築で、外壁の一部が石造のしゃれた建物です。

久しぶりに館内に入った時の印象は、「古くない。むしろ新しいくらいだ。」と感じたほど、サクラマスサンクチュアリセンターは古びていませんでした。ひとつだけ残念に思ったことがあります。それはセンター開設17年間の詳細な記録が、保存年限を経過して残されていないことでした。先人たちの努力の跡やセンター活動の実績が、隣接する元気の森の深いササやぶの中に埋もれてしまったかのようでした。

今月の担当は・・・



地域おこし協力隊
環境生態系保全技術指導員

河村 博

た。

開設当初から、毎年どれくらいの人たちがセンターを訪れたのか、何ができて、何ができなかったのか。そばを流れる保護水面余別川の流れに変化はなかったのか、などなど。訪れた人々に喜んでもらえるようなセンターにするうえで、これらのデータは欠かせないものだからです。

センターの活動

平成23年から再開したサクラマスサンクチュアリセンターは、「訪れた人たちに喜んでもらえる施設。サケマス保護水面である余別川と周辺の森や生き物のことを学習できる施設。地元の人々、特に子供たちに愛される施設。そしてセンター周辺の森や小川で生き物の観察や体験学習ができる施設。」を目標にして活動が続けられてきまし

同センターは町内外の支援も受けながら、展示内容と展示物の更新、サクラマス漁具の寄贈展示、資料コーナーの新設と特別展示、観察水槽と地元写真愛好家の展示、講演会、さらに元気の森周辺のベンチャや橋、余別新川の親水池の整備などに取り組んでいます。秋と春にはササにおおわれた元気の森の林床（下草が生える部分）のササ刈も行われました。来春ここには色々な種類の野草が育ち、訪れる人々に森の豊かさを届けることとしましょう。資料コーナーには保護水面や一般河川の調査結果もそろえています。

また稚魚の放流や課外学習、社会科学習など、地元の小学生と交わる機会も増えてきたところです。サクラマスサンクチュアリセンターを訪れた子供たちのなかから一人でも多く、積丹

の生き物や環境に興味を示し、それらに関係する道に進んでくれる者があれば、センターとしてこれに勝る喜びはありません。

最近の取組み

最近の取組みを二つ紹介します。ひとつはこの春に始まった「春の桜鱒グルメフェア」です。これは外部団体と積丹観光協会、積丹町サクラマスサンクチュアリセンターが協同して、積丹のサクラマスの料理を食べ、学んで、遊ぶ企画です。もうひとつは、さまざまな組織の人との共同で、積丹の山・川・海のつながりが科学的に明らかにされつつあることです。前者は経済効果のことであり、後者はそれを支える資料（データ）を蓄積することです。

これまで森の栄養が川や海そして森の生き物たちのつながりによって、再び森にもどってくる話をしてきましたが、人と人とのつながりもまた、地域の暮らしを支えていくために欠かせないものであることがよく分かります。

地域と歩む

サクラマスサンクチュアリセンターでは毎月の来館者数、市町村などを資料として整理しています。これは来館者名簿に記載していたただけを対象にするため過小評価になります。今シーズンに来館者数は600名を超えました。この大半が町外・道外の方々です。町内の方の数も増えていきます。センターの展示内容や展示物は随時更新されています。したがって何度訪れてもそのたびに新しいことに触れると違うわけです。過去の展示も資料コーナーに残されています。町内の来館者数の比率を高めることが、センターの次の活動目標の一つに位置付けられています。

山（森）と川と海がセットになった積丹町の自然は、世界自然遺産になった知床の自然に匹敵するものがあります。積丹の豊かな自然のいとなみとその恵みを、町内そして町外の人たちに正しく伝えていくことが、サクラマスサンクチュアリセンターの主要な役割と考えています。